

ASEAN10カ国の保健相：プロフィール 新型コロナウイルス対策の主管閣僚

東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国10カ国では、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を阻止するために、タイの非常事態令、マレーシアの「行動制限令（MCO）」、シンガポールの「サーキット・ブレーカー（強制遮断）」、インドネシアの「大規模社会制限措置（PSBB）」、フィリピンの「拡大コミュニティ隔離措置（ECQ）」など各国独自の対策を施行している。これらCOVID-19対策の策定と施行において、医療・検疫・公衆衛生の分野はもとより、国家の社会・経済的活動にも重大な影響を及ぼす決定で主導的な役割を担っているのが、下記に紹介する各国の保健相だ。

《タイ》

■副首相兼保健相 Deputy Prime Minister and Minister of Public Health

アヌティン・チャーンウィーラクン Anutin Chamvirakul



新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大を防止するために3月26日からタイ全土に施行(5月1日に延長されて期限は5月31日)されている緊急事態令の下で、感染対策の社会的制限・公衆衛生・医療面での陣頭指揮をとっている。街頭で自らマスクを配布するなど任務遂行への真剣さを評価する向きもあるが、閣議での正式決定前の(しかも後に変更された)COVID-19対策に関する行政令の内容を自身のフェイスブックで公表するなど何かとスタンドプレイから来る勇み足や失言が目立ち、辞任を要求する世論に直面している。

*東北タイを政治地盤とする連立与党第2党「プームチャイタイ(タイ威信党(BJP))」の党首。2019年7月の第2次プラユット政権成立時に現職に就任。
*スワンナプーム国際空港建設など交通関連のインフラ建設などを手掛ける大手複合企業「シノ・タイ」の社長を務めた大物実業家で富豪。
*父親は、タクシン派ソムチャイ政権末期の2008年12月に首相代行を務めたチャワラット(Chavarat)・チャーンウィーラクン元副首相。
▼1966年9月13日、バンコク生まれ(53歳)。89年(米ニューヨーク)ホフストラ大学卒(工学士)、タマサート大学経営学修士(MBA)。「シノ・タイ・エンジニアリング・アンド・コンストラクション社」の社長を経て、2004-06年、タクシン政権で副保健相、副商業相、副保健相(2回目)を歴任。07年5月タクシン派「タイ愛国党(TRT)」の解散命令に伴い、(当時は同党執行委員だったために)5年間の公職停止処分を受ける(-12年5月)。12年9月タイ威信党(BJT)党首に選任(-19年7月)。19年7月16日プラユット内閣成立時に現職(副首相兼保健相)。[既出データ] AMR(19/05/01)(19/08/01・15)

《マレーシア》

■保健相 Minister of Health

アドハム・ババ(医師) Datuk Seri Dr. Adham Baba



今年3月に発足したムヒディン現内閣で現職(保健相)に起用されたが、就任早々に新型コロナウイルス(COVID-19)対策の最前線に立たされた。マレーシアでは、3月18日から人々の外出を原則禁止するなどの「行動制限令(MCO)」が施行されており、同(アドハム)氏は、感染拡大の防止のための社会的規制や公衆衛生・医療面を主管している。

*クリニック18カ所を運営する医療法人の理事長。連立与党第1党「統一マレー国民組織(UMNO)」の下院議員(2期目：ジョホール州トウンガラ選挙区)。
▼1962年10月6日、(旧・マレーシア連邦)ジョホール州バトゥパハット生まれ(57歳)。マラヤ大学医学部卒(MBBS)。保健省医系技官、青年・スポーツ省専門官(教育)を経て開業し、入閣前まで医療法人「Klinik Adham Medical Services Sdn Bhd」理事長・院長。2004年下院議員に初当選。04

年-08年高等教育省政務次官。08年3月ジョホール州議会議員(-18年5月)。18年5月総選挙で下院議員に復帰(2期目)。20年3月10日ムヒディン内閣成立時に現職(保健相)。[既出データ] AMR(20/05/01)

《シンガポール》

■保健相 Minister for Health

ガン・キムヨン(顔金勇) Gan Kim Yong



シンガポールでは、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大を防ぐために、4月7日から、金融用語を用いて「サーキット・ブレーカー(強制遮断)」と名付けられた、「ソーシャル・ディスタンシング(社会的距離の確保)」に重点を置く様々な規制措置を施行している。同日成立した同措置の法的根拠となる「Covid-19(臨時)法」では、(ガン)保健相が、集会の禁止、施設の閉鎖、一時的な施設接収など(違反者に罰則を科すことができる)行政命令の発令権者になっている。1965年のシンガポール建国以来、最悪の景気後退に直面する中で、これらの諸規制をいつから段階的に解除していくかで、同(ガン)氏は慎重で難しい判断を迫られている。
*元通産省・内務省官僚。国務相(教育・人材開発)、人材開発相を経て2011年5月から現職。単独与党「人民行動党(PAP)」の組織上のトップである中央委員会委員長。国会議員(4期目：チュアチューカン集団選挙区)。
▼1959年2月9日、(英連邦自治州)シンガポール生まれ(61歳)。華人でキリスト教徒。(英)ケンブリッジ大学卒(電気工学)、同大学文学修士(MA)。83年通産省入省(課長)後、87年同省副部長、89年内務省調査部長。その後、政府系鉄鋼大手「ナツスチール(NatSteel)」社でアシスタント・ジェネラル・マネジャーなどを歴任後、96年同社副社長。2001年国会議員に初当選。05年ゴー・チョクトン内閣で国務相(教育・人材開発)。08年4月人材開発相代行を経て、09年4月リー・シェンロン改造内閣で人材開発相。11年5月21日から現職(保健相)。[既出データ] AMR(15/10/15)(08/04/15)

《ブルネイ》

■保健相 Minister for Health

モハマド・イシャク・ジャーファル(医師) Dato Seri Dr. Md. Isham Jaafar



ブルネイでは、本稿執筆時点(5月6日)での新型コロナウイルス(COVID-19)感染者の累計人数は138人(うち死者1人)だが、同日までの過去17日間、新しい感染者は出ておらず、水際対策が成功しているとみられている。同(イシャク)氏は様々な社会制限措置を含むCOVID-19対策の総責任者として陣頭指揮を執っている。
*英国の大学で医学の学位を取得した心臓胸部外科医で、欧州心臓病学会(ESC)、アメリカ心臓病学会、東南アジア諸国連合(ASEAN)心臓病学会などのフェロー。2017年12月にハサナル・ボルキア国王(首相・財務相・国防相・外交通商相)によって前任者が突然解任されたことに伴い、現職(保健相)に抜擢された。入閣前は、最新設備の整った総合医療

施設「ジュルドンパーク・メディカルセンター(JPMC)」の理事・センター長兼医長。

▼1995年(英スコットランド)ダンディー大学医学部卒。同大学病院で研修医を務めた後、(英)グラスゴー大学医学部講師(解剖学)。英国国内で一般外科医として勤務した後に(ブルネイに)帰国。その後、東南アジア地域でも最高峰のマレーシア国立心臓病専門病院「インスティトゥート・ジャントウン・ヌガラ(IJN)」で心臓胸部外科医として勤務。英国に戻り、ケンブリッジシャーのパワース病院で研究員生活を送る。2005年に帰国後は国内の病院の顧問を務めた後に、JPMC理事・センター長兼医長。17年12月5日に現職(保健相)に就任。[既出データ] AMR(18/02/15)

《インドネシア》

■保健相 Minister of Health

テラワン・アグス・プトラント(退役陸軍中将・医学博士)

Lt.Gen.(Ret.) Dr. Terawan Agus Putranto



インドネシア政府は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大を防止するために、在宅勤務(外出規制)などを骨子とする「大規模社会制限措置(PSBB)」を、4月10日のジャカルタ首都特別州を最初に、ジャカルタ大都市圏(ジャボデタベック)の州・県・市、さらに地方の「感染危険」地域へと順次施行してきた。(テラワン)保健相は、各自治体の首長の要請を受けて、このPSBBの施行を許可する権限を持っている。

*2019年10月の第2期ジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)政権発足時に現職(保健相)に起用された。陸軍の軍医(専門は放射線科)として約30年間務めた退役軍医中将。東南アジア諸国連合(ASEAN)医学放射線学会会長。

▼1964年8月5日、ジョクジャカルタ生まれ(55歳)。(ジョクジャカルタ)ガジャマダ大学(UGM)医学部卒、ハサヌディン大学医学博士。1990年に陸軍入隊後、軍医として衛生部隊・部局の要職を歴任。2009年(ユドヨノ)大統領医療チーム医師。15年ガトット・スプロト陸軍病院院長。19年10月23日から現職(保健相)。[既出データ] AMR(19/12/15)

《フィリピン》

■保健相 Secretary of Health

フランシスコ・デュケ Francisco T. Duque III



フィリピン政府は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月15日からマニラ首都圏、同16日からはルソン島全域に「コミュニティ隔離措置(CQ)」(実質的な「封鎖」)を施行し、その後はピサヤ地方やミンダナオ地方の一部も対象地域に含めてきた。また、4月24日からは同措置を強化した「拡大コミュニティ隔離措置(ECQ)」を施行している(当面の期限は5月15日)。この「隔離措置」施行の中核機関「省庁間タスクフォース(IATF)」で、(デュケ)保健相は公衆衛生・検疫・医療分野の施策を所管。ただ、リーダーシップが欠如しているとして、4月中旬には上院議員15人の連名で解任要求の決議案が出されている。

*元来は内科医・病理学者。第2期アロヨ政権でも4年間保健相を務めたことがあるが、2017年11月、ドゥテルテ大統領に請われて2度目の保健相に就任した。

▼1957年2月13日、マニラ生まれ(63歳)。サント・トマス大学(UST)医学部卒(MD)、(米ワシントンD.C.)ジョージタウン大学で理学修士号(病理学)取得、(米)ハーバード大学から保健計画管理学学位取得。(パンガシナン州)リセウム・ノースウェスタン大学(LNU)医学部長、パンガシナン・メディカル・センター院長、マカティ・メディカル・センター救急医学カレッジ学長、LNU執行副学長などを歴任し、1999年に「フィリピン医療保険公社(PHIC)」理事。2001年3月から保健省次官を3ヶ月間務めた後にPHIC総裁・最高経営責任者(CEO)兼「フィリピン健康保険公社(PhilHealth)」副理事長に就任。05年6月第2期アロヨ政権の保健相(09年9月)。10年2月公務員人事委員会(PCSC)委員長(15年9月)。17年に「公務員保険機構(GSIS)」総裁を短期間務め、同10月26日から現職(保健相)。[既出データ] AMR(05/11/01)

《ベトナム》

■副首相兼保健相代行 Deputy Prime Minister and Acting Minister of Health

ブー・ドック・ダム Vu Duc Dam

ベトナムは厳しい隔離政策で新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大を食い止めている(5月6日時点で感染者271人、死者0人)。同(ダム)氏は同政策の実施機関「新型コロナウイルス感染防止のための国家指導委員会」の委員長。ベトナムの副首相4人のうちの一人。昨年11月に、唯一の女性閣僚だったグエン・ティ・キム・ティエン(Nguyen Thi Kin Tien)保健相(当時)が「定年年齢(60歳)に達している」などを理由に任期途中で解任されたことに伴い、保健相代行を兼任することになった。

*2013年11月に政府官房長官から副首相に昇格。16年4月に発足した第14期内閣(グエン・スアン・フック首相)で副首相に再任された。ベトナム共産党(CPV)中央委員(非政治局員)。

▼1963年2月3日、(紅河デルタ)ハイズオン省生まれ(57歳)。(ベルギー)ブリュッセル自由大学卒(通信学)、同大学経済学博士。郵政・電気通信省副局長を経て政府官房アセアン局局长、(ポー・ヴァン・キエツト)首相書記官、郵政・電気通信省次官を歴任。党務に異動となり、(東北部)クアンニン省党委員会第一副書記、同省人民委員会主席、同省党委員会書記を歴任。2011年8月、第13期内閣で政府官房長官に就任。13年11月副首相。16年4月9日、第14期内閣で副首相に再任(一現在)。19年11月5日に保健相代行を兼任。[既出データ] AMR(16/05/15)

《カンボジア》

■保健相 Minister of Health

モム・ブンヘン Mam Bunheng

2008年から現職(保健相)を務めており、ASEAN保健大臣会合(AHMM)の各国代表としては最古参。病院副院長から保健省官僚を経て政府入り。単独与党「カンボジア人民党(CPP)」の中央委員。

▼1949年4月13日、タケオ州生まれ(71歳)。(プノンベン)医科学校(現・カンボジア健康科学大学)卒(医学士)、医師国家資格取得。1974年から病院の医師として勤務。1979年(プノンベン)プレア・コッサマック病院産婦人科長、81年クメール・ソ連友好病院副院長、85年保健省予防・治療局副局長、91年同省保健局長、93年(新生・カンボジア王国)保健省次官、98年保健省長官。2008年9月25日、第3次フン・セン政権で現職(保健相)。以後、第4次(13年9月)、第5次(18年9月)で再任。

《ラオス》

■保健相 Minister of Health

ブンコン・シーハヴォン(准教授・医師) Assoc. Prof. Bounkong Syhavong

2016年4月、第8期第1回国会で承認されたトンルン・シースリット内閣で副保健相から現職(保健相)に昇格。内科医で大学医学部准教授。

▼(ビエンチャン)医科大学(現・ラオス国立大学医学部)卒。国立マホソット病院内科医兼ラオス国立大学(NUL)医学部教員。2009年ラオス健康科学大学医学部長(准教授)。11年副保健相。16年4月20日現職(保健相)に就任。

《ミャンマー》

■保健相・スポーツ相 Minister for Health and Sports

ミン・トゥエ(博士) Dr Myint Htwe

与党第1党「国民民主連盟(NLD)」が主導するティン・チョー連立政権が発足した2016年3月に現職(保健・スポーツ相)に就任し、18年3月に発足したウィン・ミン現政権でも留任した。政党に所属していない無所属(民間起用)の閣僚。

*米ジョンズ・ホプキンス大学で博士号を取得した内科医で公衆衛生学の専門家。保健省官僚として18年間要職を歴任した後、世界保健機関(WHO)の職員も務めるなど保健行政に精通したテクノクラート閣僚。

▼1948年9月24日、ラカイン州シットウエ生まれ(71歳)。ビルマ族。ラングーン(現ヤンゴン)第1医科大学卒、フィリピン大学(UP)公衆衛生学修士(MPH)、(米ボルチモア)ジョンズ・ホプキンス大学博士(国際保健・疫学)。1976年保健省に入省し、大臣官房国際保健部長などを歴任。94年世界保健機関(WHO)東南アジア地域事務局(インド・ニューデリー)に出向し、同事務局アドバイザー、プログラム管理ディレクターなどを歴任。2010年公職から退官。ミャンマー医師会(MMA)予防・社会医学部長を経て、16年3月30日から現職(保健相)。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)